**2016年3月6日 詩編を読もう：善を行なう者はいない (詩編53編)**

先週は1月に怪我をした父の見舞いのため休暇を取り日本に行っていたため、詩編を読もうはすっかりお休みさせていただいた。　さて、四旬節中の「詩編を読もう」復活したい。　今週の詩編を読もうは、聖書日課では来週の7日から9日に与えられている詩編箇所、53編をとりあげたい。　各自で読み、また、自分で聞き、いつものように、気になる言葉、あるいはインパクトのあった言葉や節は何かを挙げる。次に、詩編の作者の気持ちになってどのようなことを詠っているか、考える。そして神は、今の私たちに何を語っているのか、思いを巡らせよう。

詩編53編

1:【指揮者によって。マハラトに合わせて。マスキール。ダビデの詩。】

2:神を知らぬ者は心に言う／「神などない」と。人々は腐敗している。忌むべき行いをする。善を行う者はいない。

3:神は天から人の子らを見渡し、探される／目覚めた人、神を求める人はいないか、と。

4:だれもかれも背き去った。皆ともに、汚れている。善を行う者はいない。ひとりもいない。

5:悪を行う者は知っているはずではないか／パンを食らうかのようにわたしの民を食らい／神を呼び求めることをしない者よ。

6:それゆえにこそ、大いに恐れるがよい／かつて、恐れたこともなかった者よ。あなたに対して陣を敷いた者の骨を／神はまき散らされた。神は彼らを退けられ、あなたは彼らを辱めた。

7:どうか、イスラエルの救いが／シオンから起こるように。神が御自分の民、捕われ人を連れ帰られるとき／ヤコブは喜び躍り／イスラエルは喜び祝うであろう。

インパクトのあった言葉として、2節に表現され、4節にも繰り返された「善を行なう者はいない。」という言葉。　4節には、「ひとりもいない。」とまで付け加えられている。

詩編作者の気持ちを想像しつつ、この詩編が何を詠っているのか、考えたい。1節の説明のなかで、「マハラトに合わせて。マスキール。」となっているが、聖書辞典などで調べても、あまりピンとくる明確な意味は得られない。　マハラトという言葉には本来、病という意味があったようだ。　マスキールは教えとか教訓という意味にとれば良いと思う。　2-4節で詠われる内容は、この世の人間は神を求める者はおらず、だれ一人として、善を行なう者などいない。5節では、この世の人間の悪を行なう者の状況をさらに強めて表現している。　その意味するところは、同じ神の民であるにもかかわらず、創造してくださった神を呼び求めることもせず、まるでパンを食べるかのごとく、平気で民が民を傷つけている。6節にはいって、ぐっと旧約聖書的な神の意志が表現されはじめる。神はそのような人間を、撒き散らし、退け、辱める。最後の7節には希望が表れてくる。歴史的には、イスラエルの民がエジプトの奴隷時代から、あるいはバビロン捕囚から、解放が訪れたように、神みずからが、民を赦し解放してくださることが起こりますように。そして先祖も、歌って、踊って、喜び祝う。

さて、この詩編の言葉を通し、主なる神は、今日、私たちに何を語りかけているのだろうか？　受難節、レントという期間において、わたしたち人間は、いかにどうしようもない、罪をおかしてばかりの、つまりすぐに神の思いから逸れた思いや行動を起こしてしまう自分であるかに、気付かされる。　イエスを十字架にかけたのは、あるいは今も架けてしまっているのは、ほかでもない、自分自身であることに気付かされることが、レントの意味なのだと思う。　詩編53編で、「善を行なうものはいない。」と繰り返し詠われるこの言葉は、私たちに根付いている罪を思い出させる。

ちなみに、聖日に与えられる福音書箇所では、放蕩息子の話。　放蕩息子は、たしかにどうしようもなく放蕩の限りを尽くすわけだが、その兄は、父のことを守り、賢明な暮らしをしていたかのように思える。　しかし、自分の兄弟である弟のことを見下し、差別しているような点では、やはり、なんら「善を行なう者」というレッテルは貼られることはない。　詩編53編5節に表現された「パンを食らうように私の民を食らう」とは、放蕩息子の兄のイメージに重なってくるような面がある。

しかし、善を行なうものはない、罪だらけの民、ひとりひとりであっても、神が慈しみをそそぎ続けてくださっている。　それは、このレントの期間が終わる、主の復活により、明確になり、たからかに讃美歌を歌うことを覚えて。アーメン

安達均